熊日1959.07.23

魚が死ぬ水俣川口

県はなぜ発表しない

県会対策委

水俣川の川口で魚介類が〝みるみるうちに死ぬ〟ことが二十二日の県議会水俣病対策特別委員会で明らかにされた。

同委員会はこの日第三回目の委員会をひらいたが、これに陳情した水俣市漁協（組合長渕上末記氏）の代表約十人は〝新日窒水俣工場の汚水が排出される水俣川の川口の魚は、みるみるうちに死んで水面に浮かびあがる〟と訴えた。また岡本委員（自）は〝県と地元漁協が最近その排水口付近で実験した結果、魚が六分間で死ぬことがわかったはずだ。県はこれをなぜ発表しないのか〟と追及した。水俣川の川口は従来水俣病の発生地として注目されていた袋湾の北側に当る。

またこの日の委員会では窮乏化する沿岸漁民への融資あっせんに県が努力するよう要望した。

なお特別委は田中委員長（自）以下五人が全員二十三日の特急〝はやぶさ〟で上京、国の特別立法による漁業禁止区域の設定や漁民への補償問題などを関係各省に陳情する。